

令和2年度第2回新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時：令和3年3月16日（火） 午後3時～5時

場 所：新潟市北区郷土博物館 集会室

出席委員：7名

阿部紀夫、大月優子、小島勝治、小林久哉、里村洋子、
島 吾郎、本井晴信 (五十音順、敬称略)

欠席委員：3名

石川明子、武仲浩美、谷 哲夫 (五十音順、敬称略)

傍 聴 者：なし

事 務 局：(北区郷土博物館) 木村隆行 館長、神田直子 主査(学芸員(美術))、
曾部珠世 会計年度任用職員(学芸員(歴史))
齋藤加奈 会計年度任用職員(学芸員)
(北区地域総務課) 中川 陽 課長補佐

資 料：事前配布(別添)

会議のあらまし

- ・令和2年度第2回目の協議会を開催した。
- ・島会長の進行により、別添の会議次第に沿って行われた。
- ・議事の項目ごとに、別添の配布資料に基づいて、博物館が説明を行い、それに対して委員から質疑や意見などが出された。

1 開会

(司会)・・・・・・・・・・・・・・・・・・神田

ただいまから令和2年度第2回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。

本日は委員7名が出席され、会議は成立しています。

傍聴者はありません。

2 あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・島会長

3 あいさつ 中川北区地域総務課補佐

4 議事

(司会) 島会長から議事の進行をお願いします。

(島会長) では早速、議事に入ります。まずは会議次第の議事(1)新潟市北区郷土博物館の令和2年度後期の事業報告について、博物館から説明をお願いします。

(1) 令和2年度後期期の新潟市北区郷土博物館事業報告について

(神田) 「令和2年度後期の事業報告」を資料(pp. 2-12)に基づいて説明。

(島会長) 令和2年度後期の事業の報告について、ご意見、ご質問を頂戴したい。

【質疑応答】

(木村館長) ・本日欠席されている谷委員と武仲委員から、ご意見・ご感想をいただいている。ここで、その概要を伝えさせていただきたい。

谷委員 『昭和のくらし』展のチラシを拝見したが、地域の特色というよりも日本のどの地域でも見られた姿で、多くの方々の共感を得ることができると思う。北区のみならず市内、県内に向けてPRをしてほしい。「天秤棒を担ぐ」という体験は魅力的な着眼である。それと関連づけて「天秤ばかり」といった道具も教えてあげてほしい。

「型とシンボル展」は昨今の市内の美術展示において秀逸な試みと思う。今後も北区郷土博物館が新潟の美術文化をリードすることも十分可能と思う。展示のレベルは点数の多さではなく展示の理念と作品の質によって決まるので借用作品を活用し、世界に通用する展示を展開することを期待する。

人間が生み出した資料を活かし、「再生させる」ことが、生き生きとした博物館活動の使命と思う。北区の歴史は世界の歴史に通じ、北区の美術は世界の美術と連関するという意識で博物館事業を展開してほしい。

武仲委員 事業の一つ一つの取り組みは素晴らしいと感じる。その反面、過重労働が懸念される。見逃してしまったと思う企画や事業があるが、事業を行った結果報告くらいの情報が入った開催のお知らせが欲しかった。チラシ・ポスターと連動するメールマガジンがあったらよいかも。このところ、県立博物館でさえ民営化の動きがあるように聞くが、文化

活動を経済ありきでやると文化は壊れると思うので、こうした風潮に危機感を抱いている。

- (小林委員) ・私が勤務する葛塚東小学校では、4年生には福島潟の干拓、3年生には昔の暮らしを学ぶことを目的に博物館を利用させていただいている。福島潟の干拓は4年生にとって難しいが、丁寧に説明していただき感謝している。3年生については、学校に戻って体験したことを話してくれる内容を聞くと、きちんと「振り返り」が出来ているように思われる。
- (小島委員) ・これまで協議会委員として、「学・社・民の融合」、そして「保存と活用」という2つの視点から話をさせてもらってきた。
昔の道具を展示する企画（ふるさと学習）を中心として、小学校の団体見学に対応していただいている。今年度は、北区の4つの小学校がふるさと学習の場として利用しており、学校との連携が着々と進められており、感謝している。しかし、この4校は、いずれも旧豊栄市域の学校であり、旧来の新潟市域の北地区の小学校も訪れてくれるような仕組みを考えてほしい。
また、美術の企画展では、この博物館がよい作品を所蔵していることを気づかせていただいた。「保存と活用」の観点からも、年に一度は開催してほしいと思う。
- (小林委員) ・葛塚東小学校でも、子どもたちの（美術）鑑賞学習に博物館の美術展を利用できないかと考えている。
- (本井委員) ・博物館は、資料の保存という大切な使命があり、保存と展示を両立させることを前提とするため、民俗資料（昔の道具など）は、「どのように使っていたのか」「どのように動くのか」といった実際の活用の様子を展示に反映させることがなかなか難しい。子どもたちにとって、体験する、道具が動いているところを見る、といったリアルな感動が大切である。10年、20年で道具は変わる。その地域に即した産業の記憶も残すべきであり、北区の「葉たばこ」はよい例である。博物館はその地域の記憶の集積場所である。先ほど、「経済効率優先」の話が出たが、その効率化に抗して活動を続けるには「なぜ博物館が必要なのか」を、実践を通して説明していかなければならない。
- (大月委員) ・小島委員が発言されていた通り、北地区の学校が来ていない。この博物館

は、「葛塚」中心であると思う。北地区の学校から利用してもらえるように働きかけをすることが必要だと思う。

また、コロナ禍で、来館者への対応が難しいかと思うが、入館時に自動で体温測定を行い、アルコール消毒する機械を導入すると手間がかからない。予算があれば、そういうことも考えてよいのではないか。

- (木村館長) ・北区の学校利用については、豊栄地区の学校では、豊栄地区のコミュニティーバスを利用して博物館に来ているが、松浜や濁川など旧来の新潟市域ではコミュニティーバスを持たないということも、要因の一つかとう。しかし、来年、コミュニティーバスが廃止されるので、学校の団体観覧にも影響が出てくると思う。
- (阿部委員) ・この博物館における北地区の歴史・民俗などの資料の収集はどうなっているのか。
- (島会長) ・このたび、(北地区の) 濁川の渡邊家文書が寄贈されたそうだが。
- (木村館長) ・松浜、濁川、南浜といういわゆる北地区は、もともと新潟市だったので、既に新潟市で資料を収集している。当館では、なかなか収集が進まないのが現状である。
このたび、濁川の農家かいただいた古文書は、江戸時代～昭和20年代のもので、新潟市でも把握していない資料であり、新たな発見であると言える。現在調査を進めているところである。
- (里村委員) ・当初、博物館での美術品展示に違和感があった。「予算がないから」、地元に関係するものだから」、やっているのかと思った。しかしそうではなく、博物館において美術をやるという視点が企画により示され、その視点から「美術を見ること」「見かた」を教えてもらった。博物館としてぜひ続けてもらいたい。
また、「昭和の暮らし」は、「私たちが捨ててしまったもの」を見つめ直す機会ともなる。ぜひ、続けてほしい。
先ほどの話題に出たが、県立の公共施設の民営化（指定管理）方針が示されていて心配である。北区郷土博物館は踏ん張ってほしい。
- (島会長) ・葛塚の商店街がこの博物館の企画展などのポスターを入口などに貼っているのを見かけた。館と地域に信頼関係があり、一体となっているのを

感じた。また、先日、NHKのテレビ番組「みんなのうた誕生秘話」でアニメーター月岡貞夫さんの「北風小僧の寒太郎」が取り上げされていたが、大変感動した。

(2) 令和3度の新潟市北区郷土博物館事業計画について

(木村館長) 議事(2)「令和3年度の事業報告」を資料(pp.13-16)に基づいて説明。

(島会長) 令和3年前期の事業の報告について、ご意見、ご質問を頂戴したい。

【質疑応答】

(阿部委員) ・分館横井の丘ふるさと資料館が廃止となるにあたり、そこにある横山蒼鳳氏が書いた大きな扁額は、どうなるのか。巨大な額なので、扱いが大変だが、この地域の地理的な歴史が書かれている。大事な資料なので、ぜひとも活用してほしい。
また、新潟市であった北地区の資料のことについてだが、この地区の資料の資料の収集・保存の方向性を見出してもらいたい。

(木村館長) ・扁額は大きいので、博物館で活用するというについては、いろいろ検討しなければならないことがある。
北地区の資料の収集については、地元の人達の協力を得て進めていきたい。しかし、来年度はとにかく「木崎争議100周年事業」のための準備を集中して進めなければならないと考えている。

(本井委員) ・北地区の地形の特徴(砂丘)を反映している産業に、タバコがある。

(曾部) ・葉タバコの資料は、少しずつ収集している。以前、葉タバコ農家一軒の仕事を追跡して取材をした。しかし博物館で展示紹介しようとするれば、写真だけでは不十分であり、やはり、実資料がほしいところである。これからも進めなければならないが、全体を示すものはなさそうだ。

(里村委員) ・北地区の資料として、葉タバコの乾燥小屋の写真をぜひ集めてほしい。

(小島委員) ・木崎小作争議100周年事業は時機を得た企画である。争議というマイナス視点ではなく、日本の近代の民主主義の「産みの苦しみ」の一つとい

うプラス視点で捉えていってほしい。

(島会長) ・旧太田小学校跡に、新潟市文書館が出来るわけだが、博物館との関係はどうなるのか。

(木村館長) ・文書館は、保存年限の過ぎた公文書から選別された行政文書の保存が中心になると思う。

(小島委員) ・文書館には、関心を持っている。北区に、「松ヶ崎浜村」の行政資料がほしい。北区にそれがあるとよいと思う。

(島会長) これで議事を終了します。

5 その他

(1) 委員の任期満了について

(2) その他

6 閉会

(司会) 島会長、ありがとうございました。
委員の皆様、長時間にわたりご審議をいただきありがとうございました。